



一歩 みんなのIPPO

令和2年11月24日(火)
四季が丘小学校 研究推進便り

11月13日(金)に、広島県西部教育事務所の小西宏明指導主事、廿日市市教育委員会の奥典道教育長、金本旭史指導主事をお迎えし、四季が丘中学校区小中合同研究会(学力フォローアップ校事業指定第3年次)を行いました。

これまでの学びをつなぎ、国語科と算数科の授業を提案しました。

第1学年の算数科「たすのかなひくのかな」では、演算決定の理由を根拠を明確にしながら説明することをねらいとしました。第5学年の国語科「大造じいさんとガン」では、大造じいさんの人物像を叙述をもとに考え、自分の言葉で表現することをねらいとしました。第6学年の算数科「表を使って考えよう」では、表から見つけたきまりを使って、図・式・言葉を関連づけながら考え、スクラッチを活用して問題を解決することをねらいとしました。どの授業にも、つまずきの要因分析をもとに講じた課題の大きな児童への具体的な支援と手立てがちりばめられ、気になるあの子をはじめ、学級の子供たちが主体的な学びを実現することができました。

とてもよい授業だったとたくさんのお褒めの言葉をいただきました。それは、3人のがんばりはもちろんのこと、これまでに築いてきた組織的・計画的・継続的な研究体制があったからだと思います。西本先生、菊野先生、木原先生、本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございました。

菊野学級



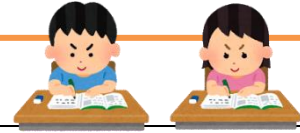
木原学級



西本学級



アンケートより ～公開授業について～



(1年生)

- ・児童の実態に即した大変丁寧な授業で本当に勉強になりました。話型・動作化・図式化など、全ての児童がわかる工夫がなされており、児童も自信をもって自分の考えを説明することができていました。また、授業の振り返りに互いの学びの姿を褒め合う姿や発言が見られ「できた!」「わかった!」という授業内容だけでなく、自己有用感を高める振り返りとなっていたことが素晴らしいと感じました。
- ・問題を見れば何算を使えばいいか、無意識にわかる大人にとって、どうしてここでつまづくんだろう?というところが小1の児童には難しいだなあと改めて認識。それは中学生も同じで、「これくらいわかっているだろう」ではなく、丁寧に指導していくことが大切だと感じました。「説明させる場面」も常に作っていかないと生徒には定着しないし、理解する力は育たないと思いました。

(5年生)

- ・ICTの効果的な活用を普段から実践されていると感じました。随所でFU児童に対する支援を感じました。
- ・どんどん子供が意見を出す学級ですね。これだけどんどん意見が出ると、発表することが楽しい学級になりますね。
- ・学習規律がよく、はっきりわかりやすい声で発表していて素晴らしいと思いました。事前に行った自分の意見をそれぞれが発表していてとても活発でした。児童一人一人がしっかり考えている様子が印象的でした。

(6年生)

- ・テンポが非常によく、学習規律がきちんとされていました。タブレットを使用しながら新しいことに先生も児童も意欲的に取り組んでいるとも感じました。
- ・授業規律が確立されており、リズムのある授業でした。それゆえに児童の集中力も途切れることなく展開されていました。
- ・表の作成(5段目まで)が短時間でほぼ全員書けていたのが驚きでした。スクラッチがスムーズに使えていたので、自分の子供たちに使わせたいと思いました。
- ・算数もここまで進歩してきたんだと率直に思いました。子供たちが「次も!」「次も!」という形で、どんどん問題を解いていたと思います。



研究会においては、広島県教育委員会の立田晃主任指導主事から「中学校でどう受け取って人生につなげるのか。」という中学校の先生方の反応に注目するようご指導をいただいていた。

中学校の先生からいただいた「小学校6年間で教育されたことを中学校でも受け止め、より伸ばしていくよう努めたいと思います。」という記述に、公開授業そして、本事業の取組の成果が見て取れます。これまで、みんなで汗をかいて頑張ることができたことを心から嬉しく思います。

研究会当日の放課後、大熊先生が「最後のFU授業研究会、がんばります!」と意気込みを語ってくれました。若手の頑張りが初任者を育てていると感じました。4人は本校自慢の若手です!